

## 養殖魚種多様化技術開発事業 (ヤイトハタ)

今吉雄二・神野芳久・今村昭則

### 【目的】

養殖業者による赤潮・疾病対策や輸出を含めた経営多角化の実現には、養殖対象種の多様化が必要であり、その一環として、これまで利用されていなかったハタ類(ヤイトハタ)の種苗生産技術開発を行う。

### 【方法】

#### 1 親魚養成

種苗生産用の受精卵を確保するため、以下の方法で親魚養成を行った。

##### (1)親魚履歴

平成23年11月に、養殖業者が海南島から平成18年に導入し、養殖していた7尾を、さらに平成24年5月に同じ由来の1尾の、計8尾(全長:78.3~93.4cm,平均87.4cm,体重:8.27~18.94kg,平均13.36kg,8歳)を親魚候補として当センターに導入し、養成を開始した。

##### (2)飼育水槽

5月~11月は魚類棟角形50KL水槽(1面)で飼育し、4月と12月~3月については加温飼育が可能な魚類棟円形60KL水槽(1面)で飼育した。

##### (3)飼育条件

飼育海水はUV殺菌ろ過海水を使用し、換水率は約4回/日とした。水温については、5月~11月は自然水温下で飼育し、海水温が18℃を下回る4月と12月~3月は、飼育水温が18℃以下にならないよう、加温した。

##### (4)給餌

餌料は5cm角にカットした冷凍サバに栄養剤を添加したものをを用いた。給餌量は、ヤイトハタ1尾当たりの魚体重を約13kgとし、総魚体重(106.9kg)の約5%相当となる5kgのサバを週2回(2.5kg×2回)に分けて給餌することを原則とした。

##### (5)採卵

6月11日から採卵を開始した。

午後、飼育水槽の排水部(採卵槽)に採卵ネットを設置し、翌朝目視による産卵確認を行った。

### 【結果及び考察】

#### 1 親魚養成

平成24年度末のスクーチカ感染により親魚が6尾斃死した事例を受けて、25年度から冬季の体力保全、疾病対策のために12月~4月の期間、飼育海水を加温して飼育しているが、衰弱や視認による疾病罹患は確認されず、8尾とも無事に越冬した。

摂餌については、例年、水温の上昇とともに活発になるが、26年度は25年度と同様に、摂餌量が増加するはずの6月~9月にかけて食いが鈍く、週あたりの給餌量を3~4kgに抑えても残餌が確認される事が多かった。10月~11月中旬にかけて一時残餌が確認されなくなった。

が、水温の低下とともに摂餌量も減少していった。

採卵については、6月11日から9月26日までの期間、採卵ネットを設置したが、による追尾行動は確認できるものの、8月18日までの間に自然産卵は確認できなかった。

8月19日に胎盤性性腺刺激ホルモン打注（写真）による人為的採卵を試みたところ、翌日からの腹部膨満、による追尾行動が顕著になり、8月23日から3日間産卵が確認された。（下表に採卵実績を記載）

得られた卵について、23日に浮上卵16万粒を選別して育卵したがふ化に至らなかった。なお、以降の卵は全て沈下、白濁卵であった。

ホルモン打注により採卵した卵については、他魚種においてもふ化に至らない事例があり、今後とも良質卵を得るための情報収集、手法の改良を進めていきたい。

また、平成24年度は自然産卵により6,600万粒を超える卵を得ることができており、種苗生産に供する良質かつ大量な卵を得る方法として、再度親魚を追加し、自然産卵を促すことも検討したい。



写真 胎盤性性腺刺激ホルモン打注の様子

表 採卵実績(過去3年間)

年度	産卵開始		産卵終了		総採卵数 (粒)	産卵 日数	平均採卵数 (粒)	最多採卵数 (粒)	最小採卵数 (粒)
	月日	水温	月日	水温					
H24	6月27日	24.6	8月24日	28.4	66,712,000	29	2,300,414	6,402,000	195,000
H25	-	-	-	-	0	0	-	-	-
H26	8月23日	26.5	8月25日	26.8	6,435,000	3	2,145,000	3,080,000	575,000

## 2 種苗生産試験

予定していた種苗生産試験は、前述の採卵不調により実施に至らなかった。